

令和5年度 第54回九州地区子ども会育成研究協議会熊本大会 開催要項

1. 目的

九州地区子ども会育成者・指導者が一堂に集い、子ども会の指導や育成上の問題点を明らかにするとともに、望ましい子ども会のあり方や問題解決の方法などについて具体的・実践的に研究協議を重ね、その成果を単位子ども会、市町村・県・政令指定都市子連の活動に反映させ、子ども会の充実振興を図ることを目的とする。

2. 期 日

令和5年11月11日（土）～12日（日）

3. 会 場

ホテル熊本テルサ 〒862-0956 熊本市中央区水前寺公園28-51（県庁北門前）

TEL 096-387-7777 FAX 096-387-7575

※ホテル熊本テルサの駐車場は有料です。駐車台数にも制限があります。

4. 主 催

九州地区子ども会育成連絡協議会、公益社団法人 全国子ども会連合会

5. 主 管

熊本県子ども会連合会

6. 後 援

文部科学省・こども家庭庁・熊本県・熊本市・熊本県教育委員会・熊本市教育委員会

7. 参 加 者

- (1) 九州各県・指定都市子連の子ども会関係者
- (2) 市町村子連の子ども会指導者・育成者
- (3) 行政担当者及び学校教職員
- (4) その他子ども会関係者

8. 参加申込

○申込方法 別紙「参加申込書」に必要事項を記入し、各県・指定都市子連で取りまとめのうえ、熊本県子連事務局宛、メールにて申し込みください。（大会事務局より受付確認メールを送信しますので、確認メールが届かない場合は、連絡をお願いします。）

○申込締切日 令和5年9月4日（月）

※大会冊子の名簿変更は、9月末までの対応です。

○参加費 一人当たり3,000円（情報交換会費 一人当たり8,000円）

※参加費、情報交換会費については、大会終了後に各県（指定都市）ごとまとめてお振込みください。キャンセルについては、大会1週間前まで対応いたします。

※振込口座等については、改めてご連絡いたします。

- 参加予定数 県外150名 県内150名 計300名（会場収容数の制限の為）
- 宿 泊 各自にて申込みください。

9. 日 程

【1日目：11月11日（土）】

- 11：00～12：00 開会行事・部会・担当者打合せ
（司会者・発表者・助言者・記録者・会場責任者等）
- 12：00～12：30 来賓・一般受付
- 12：30～12：50 アトラクション
- 13：00～14：10 開会行事（開会式・表彰式）
- 14：30～17：00 部会別研究協議（各会場）
- 18：00～20：00 情報交換会（17：30～受付） 会場：ホテル熊本テルサ

【2日目：11月12日（日）】

- 9：00～9：20 アトラクション
- 9：30～10：40 記念講演
演題：「 夢を叶える為に 」
講師：巻 誠一郎 さん（元サッカー日本代表）
- 10：50～11：30 全体会（部会報告）
- 11：40～12：00 閉会行事（閉会式・大会旗引継ぎ）

10. 研究協議会の内容

- 大会テーマ「 今こそ広げよう 子ども会会員の輪！ 」
～ 熊本発信、新たなるステージへ ～

11. 部会別研究協議テーマ

- 少子化に加えコロナ禍の状況により会員減少が多く見られる。会員減少の歯止めとして今、私たちに何が出来るか喫緊の課題である。「かたらんね」と称し、熊本の実践事例・課題をワークショップ等交えながら意見協議を深める。

※「かたらんね」はミーティングの名前、熊本弁で参加しませんか、お話しませんかという意味。

- 【第1部会】 かたらんね 子ども会会員の減少問題を考えよう1
～みんなでワークショップ～
- 【第2部会】 かたらんね 子ども会会員の減少問題を考えよう2
～事例発表をヒントに～
- 【第3部会】 かたらんね 子ども会運営について行政とともに考えよう
～事例報告・ディスカッション～
- 【第4部会】 かたらんね ユース（シニア）・ジュニアリーダーの魅力
～事例発表・ワークショップ～

12. 新型コロナウイルス感染症対策について

- 政府方針等に沿った対策を行いますので、ご理解・ご協力をお願いします。
- 感染状況により、対策を強化する場合は、県・指定都市子連事務局を通じてお知らせします。

第54回九州地区子ども会育成研究協議会 全体スケジュール

時 間	行 事 名	会 場
11日：1日目		
11：00～12：00	□各部会担当者〔司会・発表・助言・記録・会場責任者〕打合せ会	部会会場
12：00～12：30	□受 付	テルサホール前
12：30～12：50	□開会式前 アトラクション ヴィーブル子ども劇団（合志市）	テルサホール
13：00	□開 会 式 ◆開式のことば：熊本県子ども会連合会会長 丸山 康昭 ◆国歌斉唱 ◆主催者挨拶：九州地区子ども会育成連絡協議会会長 石丸 正信 公益社団法人 全国子ども会連合会会長 美田耕一郎 ◆来賓祝辞 熊本県知事 蒲島 郁夫氏 熊本県教育長 白石 伸一氏 ◆歓迎のあいさつ：熊本市市長 大西 一史氏 ◆来賓紹介：熊本県子ども会連合会副会長 橋本 誠剛 ◆九州各県（市）代表紹介 橋本 誠剛 ◆九子連表彰 ◆開式のことば：九州地区子ども会育成連絡協議会副会長 長 秋美	
14：30～17：00	□部会協議 ◆第1部会 ファシリテーター 岡山 直之 会場責任者 桂 志郎 ◆第2部会 ファシリテーター 井立 伸一 会場責任者 田中 道範 ◆第3部会 ファシリテーター 富田 慎也 会場責任者 橋本 誠剛 ◆第4部会 ファシリテーター 山本多美男 会場責任者 原 英夫	1階 テルサルーム 3階 たい樹北 3階 たい樹中 3階 たい樹南
18：00～20：00	□情報交換会 ◆アトラクション 太鼓芸能集団 紬衣 ◆来賓祝辞 ◆各県（市）の交流	テルサホール
12日：2日目		
9：00～9：20	□アトラクション 菊陽南小学校児童 司会 大村 真子・上村 茄鈴	テルサホール
9：30～10：40	□記念講演 「夢を叶える為に」 講師 巻 誠一郎 氏	テルサホール
10：50～11：30	□全 体 会 ファシリテーター 熊本県子ども会連合会理事 山本多美男 ◆部会報告と助言 助言者 全国子ども会連合会 副会長 須田 貴子	テルサホール
11：40～12：00	□閉 会 式 ◆開式のことば：熊本県子ども会連合会副会長 古津 理恵 ◆開催県あいさつ：熊本県子ども会連合会会長 丸山 康昭 ◆大会旗の引継ぎ：熊本県子連→九子連→沖縄県子連 ◆次期開催県あいさつ：沖縄県子ども会育成連絡協議会会長 上原 栄淳 ◆閉式のことば：熊本県子ども会連合会副会長 桂 志郎	テルサホール

令和5年度 九州地区子ども会育成連絡協議会 表彰受賞者名簿

□令和5年度 九州地区子ども会育成連絡協議会表彰受賞者

【敬称略】

県・市子連名	氏 名
福岡県	渡邊 一正
	榎本 博
	塚本真理子
佐賀県	横尾 浩明
長崎県	宮崎 孝
	吉津 光浩
	春田 新一
熊本県	坂本 誠次
	佐藤 貴憲
	原田 康弘
	長元 清
	日高香奈恵

県・市子連名	氏 名
大分県	矢野 洋子
	青山 晶子
宮崎県	該当なし
鹿児島県	大平 良徳
	吉松 幸夫
	末吉 正弘
沖縄県	該当なし
北九州市	山下比呂志
	二階堂武夫
福岡市	星野 俊幸
熊本市	該当なし

□令和5年度 感謝状受賞者

【敬称略】

県・市子連名	氏 名
大分県	池邊 栄治

県・市子連名	氏 名
鹿児島県	川添 公貴

部会協議会【第 1 部会】

部会関係者

◆会場責任者（桂 志郎）

◆ファシリテーター（岡山 直之）

◆記録者（坂口 奉弘）（園田 彩乃）

◆協力者（山崎 智幸）

【意見交換】

発表テーマ：『お店を繁盛（ファンを増やす）させる為どんな手を打つ？』

【第 1 部会プログラム内容】

各地から集まったメンバーの交流が広がる内容で実施。子ども会を喫茶店（商店）に例え、お客が減った店舗を再度盛り上げる（集客する）内容で話し合いを進める。子ども会の必要性や強みを再確認する。グループで話し合いを進める

目標は繁盛する商店（お店）にするためにアイデアを出し合う、子ども会の枠にとらわれない内容を出し合って、各地域に持ち帰ってもらいたい。お店に例える事で活発なアイデアと意見交換を実施。

グループ内でまず交流を進めた。

子ども会のうり（客を呼べるための魅力や店の強み）、強みを出しあった。

お店のうりとは、『魅力！・強み！・必要性！』

大人としての私の視点・子どもだった私の視点（子ども視点）で考慮した。

参加者の交流を深めるために、小グループ時に誕生日の発表で席替えをし、大グループ時には自己紹介を行い参加者同士が積極的に交流を深める事を行なった。大グループでは、現状から繁盛（ファンを増加させる）ための施策を、小グループで出し合った内容を元に、具体的に出す。各班で発表を行った。

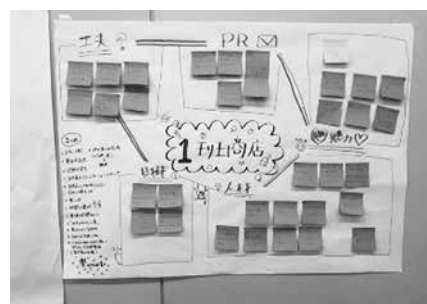


【1 班：発表内容】

ポイント性、ポイントを得ることで特典を与える。熊本県で会員証も発行して取り組んでいる。次世代交流が出来、子供達に地域の伝統を伝える事が出来るのが子供会の魅力。育成者の仲間を増やし、情報交換をする事で、地域にあった事業を取り組み活用する事が重要なのではないかと。PRは SNS を活用し、ポスティングなど行政を活用した広報も重要だと考えられる。

【2 班 発表内容】

スクールバスの活用で活動費を削減する。ジュニア・リーダーが色々な会に参加して、子供たちと一緒に連れて行くなどはどうか？親子3世代の交流もいいのではないかと？行事ごとに学校を活用してプリントの配布をしてはどうか？子ども会会費（保険代）をPTA 会費と一緒に回収する事で学校や教育員会の協力を得て、役員の労力を減らしたらどうか？



【3班 発表内容】

会議などのやり方をメールなどに切り替えて、効率化を図る。時間を有効利用するやり方を検討し負担の軽減に繋げる。保護者の連携を深めるために、子供の行事の共有を行う。佐賀では、会員増加の目的で、行政と学校に協力してもらい、子ども会会員募集のチラシを作成し、配布した。子供達の意見を聞く機会を作り、知る事から始めるのも重要ではないか。盤石な子ども会は地域自治会のバックアップがしっかりしている。地域のバックアップがある事で親御さんの負担の軽減に繋がっているので、役員のなり手不足も解決している。

【4班 発表内容】

子供にお金を稼がせる、子供が稼げる事業が良いのではないか？親子で参加する事で、よりお金を稼げるのではないか？子供達が使えらる子供券をイベントに参加したら配布する。子供達に事業の企画をしてもらい、老人会や自治会、地域の企業に売り込む内容にして、子供達にも考えて行動してもらえば、子供の成長にも繋がる事業になるのではないか？それと同時に地域活性化にも繋がる事業になる。

【ファシリテーター：岡山氏よりまとめ】

外部目線で子ども会を見ると、人が入らない、会員が増えないなど意見が多くあるが、やれる事は全てやる、本気度があれば何事も解決するのではないか？子ども会は、遊園地やレジャーでは得られない、必要な事、コミュニケーションや地域との関わり合いなど、重要な事が沢山、子ども会にはあるので、子供だけでは出来ない部分を大人がしっかりと引っ張っていき、子供達に教える事や重要性を知ってもらう事が重要になって来ると考えられる。



【参加者の声より】

- 協議の視点設定が良かった。ただの現状報告でなくその解決のための具体策を出し合うことができた。
- 会議の進め方がスムーズで楽しくできました。
- 他地域の方の意見を聞くことができ、参考になった。皆さんの子どもに対する対応がそれぞれ違い、良いことを自身の地域で活用したい。
- 毎回九州大会に参加して思う事は、それぞれに組織の環境が異なっていて取り組み方が違うということです。共感できたことは、ファシリテーターが最後に言われた「本気で対策に取り組まれていますか」の問いかけでした。
- 根本的な解決策はむずかしい。ヒントをたくさん出す手法を学ぶことができた。
- 子ども会の会員減少を止める手立てはなかなか難しいと思いますが、自分なりに努力してみたいと思います。

部会協議会【第2部会】

部会関係者

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| ◆会場責任者（田中 道範） | ◆ファシリテーター（井立 伸一） |
| ◆発表者（松尾 博之） | |
| ◆記録者（井上 恵子）（畑中 偉道） | |
| ◆協力者（田中 聖二）（小林 三剛）（坂本 誠次）（田口 康也） | |

【意見交換】

1. 会場責任者挨拶（田中 道範）

2. 本日の流れ（井立 伸一ファシリテーター）

- ①自己紹介・班長・書記選定
- ②子ども会会員の減少の現状と原因・対策についてグループワーク
- ③発表
- ④まとめ

3. 班発表から（議題：子ども会会員の減少の現状・原因・対策について）

- 大人の都合により子ども会役員になり手がいない。なりたくない。
- 魅力ある子ども会づくりができていない。
今ある企画をもっと魅力を向上させる。施設であったり、お店であったり、山登りであったり、達成感を味わえる企画で魅力を上げていく。
- 子ども会会員の家庭、人としてコミュニケーションが不足している。
地道な声掛け・あいさつを地道に取っていくことが基本だろう。楽しそうな姿、活動を見せられれば、自然と人が集まってくるのではないか。
- 子ども会の良さの周知不足ではないか。
子ども会の良さは、安全保険である。年に数百円でカバーできる良さがあるということ。年1回の総会の時に、保険業者からアピールしてもらおう。
- 組織、ルールの問題、引き継ぎが課題である。
子ども会の明確なルール作りをして、徹底的に引き継ぎをしっかりとって、組織作りを行う。しっかり基本の引き継ぎというのをやっていくしかない。
- 一番の問題は、広報。まず知ってもらおう。これが今大事。
HPを充実させる。その中にQRコードをつけて、楽しい行事の動画や写真を掲載する。そして、頻繁に更新をする。
- 役員さんの負担感が大きい。
当日に集合して開催できる行事に変えていく。役員なしで担当者というシステムを今考えているところがある。

4. 事例発表（松尾 博之副会長）

「今こそ広げよう 子ども会会員の輪」資料を基に発表。
(プレゼン資料については、熊本県子連 HP 掲載してあります。)

【質疑応答】

Q この取り組みは良いのではないかと考えています。今後の店舗だと思うが、課題解決・魅力アップ検討委員会を発足して、企画したことで、子ども会の会員が地域でどのくらい増える可能性があるのか、それと企業との協力関係があるなかで、そういう効果はどの程度あるのか。

松尾：熊本も本格的には、去年、策をずっと練っていて、本格的に動き出したのが今年で、全部の地域が一緒に動き出しているわけではない。私たちも魅力アップ委員会を設立して、総会で他の地域の皆さんに説明をして、一緒に動き出していこうと思っている。まだまだこれからということもあり、現在の協賛企業数は40くらい。例えば、お孫さんを連れて阿蘇のファームランドに行くと、連れてくるお子さん全員が、協賛の割引が受けられた。老人会で天草に行かれた時は丸健水産というご飯やお土産が買える協賛企業に行った時は、会員証を見せ値引きになった。

Q できるかどうか分かりませんが、私は大牟田にいますが、大牟田からも熊本にはたくさん行き、利用しているのですが、この会員証というものを、他県に発行することはできるのでしょうか。

松尾：熊本県では、紙の会員証で始めたばかりです。これがデジタル化されれば、九州全部を統一できるし、全国までプリペイドランみたいなのを全国各地で使えるということになると凄く魅力アップをしますし、その辺を併せて発展させていければと思います。ただ、各県で話合って、自分達独自もしくは同じ形でも良いですが、こういう協賛企業を何とか作って、やりたいというお話があれば、ぜひ、熊本県事務局にお話しただいて、お互い共有するものを持っていければ良いかなと思います。

Q カード会員になると、会員の増加には繋がると思うのですが、入られた方々は、カードを目的で、子ども会の事業にどう参加させる仕組みを考えられているのか。

松尾：先ほどの説明の中でも申しましたが、あくまでキッカケです。まず、入会していただいて、その後に子ども会の楽しさを知ってほしいという思いでこの事業をやっています。

【参加者の声より】

- 各地域の参加者から、様々なアイデアをお聞きでき、とても有意義な協議ができました。
- 発表は計画が多く、結果が感じられなかった。今後、会員増をより考える必要がある。
- 会員減少の問題を改めて考えさせられた分科会でした。すごく有意義な時間を過ごせましたし、貴重な部会の体験をさせてもらいました。
- 熊本県提案の企業への「協賛事業」を地元でも検討してみたいと思いました。

C班 問題点：内容の充実化

答え：高校生のボランティアを活用し、子ども目線での企画をしてもらう。

F班 問題点：会員減少と資金不足

答え：行政などの協力を得る。

G班 魅力ある子ども会が必要

答え：メリットをアピールしていく。

6. 好事例紹介

- * 福井県：17市町村の子ども会事務局ほとんどが、行政（教育委員会）内に事務局を置いていること。市の補助金も出してくれる。加入者の取りまとめも行政の方が行っている。
- * 茨城県：各市町村の事務局の職員を集めた研修会を実施し、事務局同士の横のつながりを強化している。
- * 愛知県：名古屋市では、タワーマンション内で子ども達を集めて子ども会を新たに作ったという事例がある。

7. まとめ

子ども会の組織は、ボランティアだけではきびしい。行政のかかわり・支援をお願いしたい。

【参加者の声より】

- アイスブレイクがスムーズに進み、なごやかな雰囲気ではじめられた。
- グループ内で気軽に話ができてよかった。他の県の事情が分かった。どの事務局も課題が多いことが分かった。
- 本日、参加して、活動におけるアイデア・解決策を期待してきましたが、課題・問題点ともに分っているので、どうしたらいいものかの解決策に関する情報提供・考え方について、もっと時間をかけて欲しかった。
- それぞれの状況の違いからなかなか着地点を見いだせないのが残念。日々、がんばって活動されている皆さんの意見が聞けるのはありがたいです。
- 他の市町村が感じていること、課題などを知ることができて良かった。好事例の取組も知れて良かった。
- どなたも、どの立場の人と同じような課題・問題点を持っている。特効薬的な解決策はないのだろうか。とにかく、あきらめずに、できるところから地道に取り組んでいきたい。

部会協議会【第4部会】

部会関係者

- | | |
|--------------------|------------------|
| ◆会場責任者（原 英夫） | ◆ファシリテーター（山本多美男） |
| ◆発表者（稲本 眞理） | |
| ◆記録者（山口 泰介）（松本 龍一） | |
| ◆協力者（松本 龍一） | |

【意見交換】

1. 会場責任者挨拶（山本多美男）

2. 本日の流れ（山本多美男ファシリテーター）

- ①自己紹介・ファシリテーター紹介
- ②アイスブレイク
- ③熊本県の事例発表
- ④グループワーク
- ⑤発表

3. 事例発表（稲本 眞理）

- 熊本のユース・リーダー、ジュニア・リーダーの現状
会員減少（少子化、子ども達の多忙化、役員の負担感など）
- 会員が減少する中、ユース・リーダー、ジュニア・リーダーがいる。
ユース・リーダー、ジュニア・リーダーの魅力。
リーダーが、子ども会活動（KYT、ゲーム）を牽引している。
- 子ども会リーダー会の存在
玉名市・氷川町・人吉市・天草市・合志市など県内の各市町村で活動している。
- 令和4年度九州地区子ども会 JL 研修会くまもと大会開催まで Line やメールを使い情報を共有。
ユース・リーダー、ジュニア・リーダーが運営を担った。
- くまもと大会を終えて
リーダー間のつながりができた。
ユース・リーダー、ジュニア・リーダーの自信や成長になった。
- 熊本県 JL 研修会の開催継続中（年間2回）
研修会のプログラムに、リーダー会カフェを実施（内容：リーダーがやりたいことを自由な雰囲気の中で語り合う）。その中で出されたアイデア（参加対象に小学生を含める）を実施する。

4. グループワーク

5つの項目（①魅力について ②目指すもの ③育て方について ④子ども会との関わり方について ⑤継続方法について（予算、話し合う会場等）について6班に分かれて項目を選びブレインストーミングを行う。

5. 発表

1班（育て方について）

研修というイメージがあったが、自由にさせているということが理想的であった。もちろん、研修も大事だと思っている。etc

2班（魅力について）

第一に楽しむことを念頭にする。etc

3班（目指すもの）

魅力を伝えていく、子どもが主体的に活動を行っていく。etc

4班（関わり方について）

大人と子どものパイプ役になる。子どものための、子どもによる、子ども会。

5班（目指すもの）

継続的な組織の確立。ジュニア・リーダーをみて次の世代が育つ。大人の負担を行政などの介入で解消しないと大人もパンクしてしまう。情熱だけに頼るのはNG。etc

6班（継続方法）

IT, SNS を活用し、多忙感を解消。予算の確保。etc

【参加者の声より】

- ユース・リーダーの魅力を知りました。持ち帰ります。
- ユースの活躍の目の前にすることができ、有意義な意見を聞くことができた。
- グループワークのテーマは大変興味深かったです。
- 5角形の検討の仕方も面白かったです。
- ユース、ジュニア・リーダーについて様々な意見や考えが出たが、その魅力をどう活かすのかという部分まで議論ができなかった。議論の時間がやや短いように思った。
- ディスカッションの時間を長くほしかった。
- テーマの割にユース・ジュニアの現状・現場の声を理解しているような参加者が少なく、議論が発展しきらなかった。
- ユースやシニア達の生の声を聞いて、大変参考になった。この子達が子ども会にいてくれることに改めてありがたいと感謝したい。子どもの数が減り、いろんな負担がある中を、よく育って来ていて感動しました。

【部会協議会についてのアンケート結果（全体）】

